

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成26年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
26-2	首都圏3環状道路の効率的な運用に関する研究開発	東京大学 教授 大口 敬	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>首都圏3環状道路を効率的に運用する方策を検討するため、首都圏広域ネットワーク交通流シミュレーションと物流施設立地モデル、大型貨物車の経路選択行動モデルを組合せて構築することを目的とし、これを用いた交通マネジメント策の評価を実施する研究開発。</p> <p><事後評価結果></p> <p>ネットワーク運用施策や土地利用誘導施策の評価を通じた「政策の方向性の提示」は必ずしも十分とはいえないが、貨物車の経路選択モデルや物流施設の立地選択モデルを構築し、これらを取り入れた交通シミュレーションモデルを実現し、今後の政策評価への利用可能性を示したことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 広域道路網交通流シミュレーションモデル SOUND をベースとするネットワークシミュレータを構築して、首都圏3環状道路整備の効果および当該道路の利用促進策の効果を分析できるようにしたことは、評価に値する。2. 土地利用分析と交通シミュレーションの連動について、必ずしも両者の関係性が明確ではなく、3環状道路を有効に活用するための土地利用誘導策やネットワークマネジメント施策が包括的に議論できていない印象を受ける。なお、細かな点であるが、貨物車の経路選択モデルの結果を SOUND パラメータに変換する過程について、ロジット感度の調整を含め、補足説明が望まれる。3. 物流施設立地モデルに関しては、例えば圏央道沿線の各自治体ではすでに立地計画を立案済みであり、それらをレビューすることにより、より現実的なモデルにすることができると期待される。4. 「動的・リアルタイムな交通管制」の実現に向けては、各道路会社や交通管理者との密接な連携を得ながら、実現に向けて検討を進めて頂きたい。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第32回新道路技術会議において審議したものである。